



2011年1月12日

前橋市長 高木 政夫 様

社団法人 日本建築家協会 (JIA)
関東甲信越支部 支部長 上浪 寛
同 保存問題委員会 委員長 和田昇三



旧麻屋百貨店（旧麻屋呉服店）の保存・活用に関する要望書

拝啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。
貴市におかれましては、日頃より文化の発展と継承に深く理解を示されていることに、心より敬意を表します。

さて、この度 新聞記事等により、貴市千代田町 2-8-19 の国登録有形文化財（2007 年登録）、旧麻屋百貨店（旧麻屋呉服店）が解体される予定であることを知り、驚きを禁じ得ません。

現所有者がやむを得ず解体をし、解体後の更地を貴市が買い上げると聞いておりますが、失ってしまったからでは取り戻すことができない、市民全ての財産でもあるこの建物の歴史的・文化的な価値は、貴市が救うべきでこそあれ、これを失う方向に進めることは望ましいとは申せません。正統な手続きを取られていることも承知しておりますが、たった4年前に貴市の手続きによって国の文化財に登録された建物が、わずかな年月の間に解体されるという事態を是非とも避け、今一度、貴市によるこの地域の将来の再開発における主要な文化的・景観的要素として この歴史的建築物を保存活用する道をご検討頂くべく、市長より解体中止を所有者に申し入れるご英断を頂けますよう、ここに お願い申し上げます。

ご高承のように、旧麻屋百貨店は東京の高堂徳治設計、木田保造率いる木田組の施工により、1934 年（昭和 9 年）に竣工した鉄筋コンクリート造地上 3 階地下 1 階塔屋付建物で、タイル張りとした南東面外壁の柱型にはイオニア様式テラコッタ彫刻の柱頭を載せ、屋上コーニスに装飾を施すなどの様子を踏襲しながらも、商店街角地の立地を生かし正面入口を R 形状としたことで、柔らかくモダンな印象を与えています。国の文化財登録の基準では「国土の歴史的景観に寄与しているもの」とされていますが、登録基準によるまでもなく、当建物は前橋市初めての百貨店建築として、開店当初より市民の人気を集め、戦後は屋上に観覧車を設置するなど、市民にとっては子どもの頃の思い出の場所でもあることから、1964 年の閉店後にテナントビルとなってからも長く人々に愛され、誇りとされてきました。また、1945 年の空襲によって前橋市内の多くの建物が被災した折にも火災の延焼をまぬがれ、堂々と立つ姿は、前橋市民にとって復興への希望の象徴でもありました。

この建物は、関東大震災後のコンクリート建築物に共通の、耐震性能を充分考慮した設計である可能性が高く、貴市のテナント入居終了後に続いた建物のメンテナンス不足による傷みはあるものの、構造体の亀裂などもあまり見受けられません。また、設計者の高堂徳治は蔵前高工（現東工大）出身で、当時耐震構造の第一人者と言われた東京帝大（現東大）教授佐野利器からも直接指導を受けたことがあると語っています。施工を請け負った木田保造（1885～1940）も、国の重要文化財となっている『日本初の鉄筋コンクリート製寺院』である東本願寺函館別院（1915 年・大正 4 年）や 東京・神田明神（1934 年・昭和 9 年・現存）をはじめ、銀座の松屋デパート（1925 年・大正 14 年・現存）、日本橋の白木屋百貨店（1917 年・大正 6 年・解体）など多くの百貨店建築も手がけ、鉄筋コンクリート造には多くの実績があり、その施工技術の高さから当時信頼される請負会社のひとつでもありました。以上のことから、今後精緻な耐震診断を行い、適切な改修を施せば、永く使い続けることが充分可能な建物であると思われます。

これらに鑑み、重ねて貴市の英断をお願いする次第です。

なお、当協会としましては、旧麻屋百貨店（旧麻屋呉服店）の保存活用について、出来る限りの協力をさせて頂く所存である事を申し添えます。

敬具